

令和8年3月19日  
琉球大学学長選考・監察会議

## 国立大学法人琉球大学学長の業務執行状況の確認結果について

琉球大学学長選考・監察会議（以下、「当会議」という）は、国立大学法人琉球大学学長の業務執行状況の確認に関する申合せ（平成30年6月14日学長選考会議決定）に基づき、令和8年1月15日に、学長の業務執行状況の確認を実施した。確認方法は、学長による業務執行状況の説明及び委員からの質疑により行った。資料は学長が作成した業務報告書を参照した。

学長の業務執行状況の確認結果は、以下のとおりである。

### 記

当会議は、第18代琉球大学学長として就任した令和7年4月1日から同年12月10日までの間の業務実績について、学長がとくに力を入れて取り組んできた業務を「教育・人材育成」、「研究・価値創造」、「地域貢献・グローバル化」、「大学の機能強化」の4つの面から説明を受け確認した。

教育・人材育成においては、学修成果の可視化を推し進めるべく、教学マネジメント推進室を本格的に始動させ、「ディプロマ・サプリメント方針」の検討と並行してアセスメントテストを施行したことが特筆される。このことにより、今日の社会ニーズに対応した人材育成と輩出を期待する。

前学長任期中から進められている「共通教育改革」、「数理・データサイエンス・AI教育」、「世界展開力強化事業」についても、教職員の専門性を活かしながら、組織的に発展的に取り組んでいることを確認した。

研究・価値創造においては、学長は、教員時の専門性とは異なる分野に果敢に挑戦し、大学全体の研究の機運を高めていると評価する。いっぽうでは、研究担当理事を中心に研究活性化マスタープランを作成するなどして、研究力向上を着実に進める取組を確認した。

地域貢献・グローバル化においては、これまでの国際経験を十分に活かし、学長自ら外国機関との連携にリーダーシップを発揮している。沖縄県系人の多いハワイ等関係機関との交流を積極的に行い、新たに外国機関と交流協定を締結するなど鋭意取り組んでいる。また、オープンキャンパスや学外のイベントで高校生等ステークホルダーと直接対話する機会を設けるなどして積極的に琉球大学をアピールしていることを確認した。

大学の機能強化においては、広報戦略の強化として広報担当の副理事及び学長補佐を任命し、統合報告書のリニューアルなど新たな取組を推し進めている。今後は、広報のコンテンツを増やし、大学が進める重点施策やその進捗・成果等をより積極的に発信することを期

待する。また、財政基盤の強化は喫緊の課題であり、方向性及び構成員が重点的に取り組むべき事項を明確に示すことを期待する。

以上のことから、学長は就任から現在に至るまで、その業務を適切に執行していると認められる。

#### 【学長選考・監察会議における主な所見】

- ・就任以降、多くをこなし多分野に取り組んで来た。財務的に厳しいことを十分に認識された上で、精力的に取り組んでいる。
- ・初年度ということもあり、特段の要望はないが、いろんな人の意見を聞いて着実に進めていただきたい。
- ・不慣れな一年目でありながらも、学内においてはコミュニケーション力を発揮して、前学長からの継続事項を円滑に進め、学外の各種会議等にも精力的に出席して琉大力を発信している。
- ・国際化や学生にどのように活躍してもらうかという点だが、学生の活躍はすごく「力」になる。例えば学生によるベンチャーを創出するなど、今は普通に行われている訳であり、新しい産業とまでは言えないが、さらに新しい世界を広げて欲しいと期待している。
- ・就任以降、各所における働きは申し分ないものであり、琉球大学の力を内外に発信できている。高校生に琉球大学を選んでもらえるような、さらなる取組を期待する。
- ・積極的に発信をされていることを評価する。様々な外部の委員や役職を務め、琉球大学長として活躍されている。学生が沖縄発ベンチャーを展開するなどし、広報できるようなコンテンツをもっと増やしていただくことを期待する。
- ・前学長から様々引継がれ、精力的に取り組んでいると評価する。今後、さらに独自のカラーが押し出されたプログラムを期待する。その一つとして、グローバル教育の観点や世界展開力事業、または女性活躍の場づくりなど進めていただきたい。
- ・経営協議会委員（学長選考・監察会議委員）に対し、大学が進めるプログラム等の進捗状況を積極的に共有いただくとともに、重要プロジェクトや重点施策について、成果・貢献度・進捗度合いについて積極的に発信していただくことを要望する。
- ・研究に関し、分野が異なる学長が前学長を踏襲し理系分野の研究を一所懸命進めていると思うが、継続してもらうとともに、文系ならではの研究色を出していただくことも期待する。
- ・沖縄という地政学的なところを生かして、アジアの大学との連携を進めていただくことを期待する。
- ・沖縄が本土と海を隔てていることから、琉球大学としての社会人スキルアップのコンテンツが大事と考えており、企業なども期待するところだと考える。公開講座のような今までの大学既存のものを提供するようなことではなく、企業等と連携して共に、社会人のスキルアップという観点でプログラムを作り、社会連携を進めていただくことを要望する。
- ・全学的にコミュニケーションを取っていく姿勢に安心している。次期中期計画では社会的インパクトが大事とされており、しっかり見定めないと、国が求めるインパクトに対応できず予算が減となることになるので、インパクトの創出に期待している。
- ・学長になると環境が一変し、それに慣れるので精一杯ということと思慮するので、就任1年目は前学長が築いた基礎を継続して着実に取組を進め、慣れていくステージと思うが、忙しいなか為すべきことをしっかり進めてきたと考える。
- ・ダイバーシティ研究環境実現イニシアチブは本学含め2大学のための採択だが、学長はジェンダー共同推進室の室長を長年務められ、そのようなリーダーのもとダイバーシティをさらに広げることは今後の発展において期待が持てる。

- ・本学出身、米国大学院出身であり、そういった強みをさらに発揮し、沖縄県内の高校生にも元気を与えられるような存在になって欲しい。
- ・医学部・病院が移転をして地理的には遠くなったが、しばしば学長自ら足を運ばれ重要案件等に対応し、コミュニケーションやフットワークの良さを感じている。
- ・本学は、成果配分の KPI が全体的に低い位置にあるため。KPI への対応としてどこを重点的に強化すべきか明確に指示することを要望する。
- ・2040年に向かって70%くらい大学生が減りそうだとの話であり、その前から段階的に教育の質を落とさずに、逆にレベルを上げていくことが求められるというのもあり、それに向けて、組織の在り方をどのような形にもっていくか、一歩先を行くような琉球大学らしい光るようなものを期待したい。
- ・教員を増やすことができない中、一人の教員がなにをできるかではなく、地域や社会が求めるニーズやミッションに基づいて教育研究ができる人材育成・組織づくりというものを期待する。
- ・女性リーダー育成型のプロジェクトに採択されているところ、今後は、教職員だけでなく、女子学生がリーダーになる教育を推し進めていただきたい。
- ・学長に指名を受けて就任している理事としては、学外委員からの意見を実現するため下支えできるよう取り組んでいきたい。